

	市長	教育長	山田委員	松田委員	市場委員	武田委員	伊藤委員	意見概要	対応方針	原案	修正案
大綱全体	<p>市長部局と教育委員会それぞれの役割があって、教育委員会でする細かいことを全部規定したり方向を決めていくことを大綱に書いていくことは考えてない。それは、教育委員会としての専門性があり、今までの多くの蓄積もあるので、多くのところはお任せしてお願いしたいというのはベースにある。教育委員会と市長とが、教育というのはまちづくりとかいろいろな意味で大きな要素だと思っている、お互いに相当連携をとりながら動いていく必要があると考えている。</p> <p>教育委員会にこういう視点からやってほしいということを私は表現していければと思っている。だから、言葉に全然こだわっていないので、変えることは全然問題ない。</p>	<p>今のような意図があって、松戸市は教育大綱をつくっていると、市民の皆さんにそういうメッセージが必要。</p>	<p>文科省の提示した定義と主な記載事項は両立し得ないのではないかと申し上げたが、総合すると、両方をにらんでつくりましたという事務局の回答だった。その立場を明確に前文なり、あるいは表題のサブタイトルに教育環境整備についての方針とか基本方針とか姿勢とかというような文言を入れて、それを策定しましたと入れることで誤解を避けたい。教育の環境整備の基本方針なんだということであれば、松戸市は特徴を持った環境整備方針、その中の議論は任せると市長の考えがあり、環境整備を整えて、そこから先のどういう教育上の何が必要なのかということについて教育委員会で議論してくれたまえという前提でつくりましたとぜひ明確にしてほしい。</p> <p>この大綱の位置づけ、この大綱がどこに働きかけているのかということはぜひ次のタイミングでまた整理したい。</p>			<p>これを読んだときに、松戸はこういうところなんだというのが一番出てしまう。ある意味ではチャンスでもあるので、魅力的に思ってもらいたいと思うことはアピールする場として、文化的なまちだなと思っていただけるような言葉の最善を選ぶということにぜひ心を尽くしてほしい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を変えることは問題ない。</li> <li>・このような意図があって、松戸市は教育大綱をつくっていると、前文等に市民の皆さんへのメッセージが必要。</li> <li>・最善の言葉を選んで欲しい。</li> </ul>	<p>「はじめに」の部分で、大綱は、教育行政の環境整備の目指す方向や範囲を示していることや教育は重要な政策の柱の一つとして位置づけていることなど、大綱の位置づけを明確にしました。</p>		<p>(14行目)そのために、4つの基本目標「子育て、教育、文化を軸とした都市ブランドづくり」……「経済が活性化し、安心して働けるまちづくり」を進めており、教育は、重要な政策の柱の一つとしています。松戸市総合戦略に示す将来像「多世代が共にいきいきと暮らせるまち」を一緒につくっていく市民をみんなで育て、みんなが育つことが、この教育大綱の理念になっています。そして、この大綱は、教育行政の環境整備の目指す方向や範囲を示しています。市民の皆さん一人ひとりと共に学び、育ち、行動し……。</p>
基本理念			<p>理念の中のサブタイトルのところを、「まちづくりのために」を直して、「暮らすために」となり、ちょっとひっかかりの大きかったとげは抜けた感じがする。</p>						<p>基本理念及び柱の「まち」という表現を見直したことに合わせ、最終行の「自立したまち“松戸”」以下の表現を「みんなで、松戸の未来を創ります。」とするなど、文章全体の見直しを図り、修正しました。</p>	<p>みんなで育てる みんなが育つ 松戸の現在(いま)、未来～「多世代が共にいきいきと暮らす」ために～</p> <p>松戸に暮らす様々な世代の人たちが、自立を目指しながら互いに助け合って、平和にいきいきと光り輝く人生を送れるようになります。</p> <p>そのために、松戸市は、すべての市民が、生涯を通じて学ぶよこびを享受できるように支援し、未来に向かって成長できるようにします。また、市民・地域社会・学校・行政が共に学び合い、互いを育めるような環境をつくります。</p> <p>そして、学んだ人たちが、学習成果をより広い世界での活躍に役立てるだけでなく、地域社会にも還元できる仕組みを整え、「自立したまち“松戸”」の力を醸成します。</p>	<p>みんなで育てる みんなが育つ 松戸の現在(いま)、未来～「多世代が共にいきいきと暮らす」ために～</p> <p>松戸に暮らす様々な世代の人たちが、自立を目指し、互いに助け合って、平和にいきいきと光り輝く人生を送れるようになります。</p> <p>そのために、松戸市は、すべての市民が、生涯を通じて学ぶよこびを感じられ、未来に向かって成長できるように支援します。また、市民・地域社会・学校・行政が共に学び合い、互いを育めるような環境をつくります。</p> <p>そして、学んだ人たちが、学習成果をより広い世界での活躍に役立てるとともに、地域社会にも還元できる仕組みを整え、みんなで、松戸の未来を創ります。</p>

市長	教育長	山田委員	松田委員	市場委員	武田委員	伊藤委員	意見概要	対応方針	原案	修正案
	特に学校教育というのは、本当に純粋なものを追い求めていく中で多様なニーズに応じて応じていく場であり、どこまで出ていけばいいのかという大変さがある、行政が持っている質というものと全く異なるものは大きいと思う。それをその中で教育行政をどうやって結びつけるかというのは本当に厄介な仕事である。教育大綱あるいは総合教育会議というものの新しいシステムを少し始めて、大綱そのものをどういった目的でつくるのかというところがなかなか絞りにくいと感じている。そういう視点に立てば、議論になっている「まち松戸」という結び方が、要するに市民の皆さんに、こういう意味でこういう結び方をしましたというふうな意図がきちんと伝われば、私たちも全部が伝わらないですけれども、やはり納得せざるを得ないかなという気はある。ただ、その場合には、そういう難しさの中で進めているから納得しますということであって、このつくられた大綱が3年なら3年の間、基本的に変えられないとか、そうなるとうまた違ってくるわけで、微調整をこれから繰り返しますとか、あるいは私どもの教育施策への影響はどういうふうにと考えると、そういったことをまた新たに考え始めなきゃいけないのかなという気はする。		教育というのが、人格の完成を目指すものだという視点に立つならば、人格ということを切り口にした徳、知、体というような力を育んでいくというふうな項目立てになってくるのかと思うし、それプラス文化、スポーツ、行政、そういう項立てになってくる。そして、発達的な視点に立つならば、乳幼児、それから小中高、そして社会教育、行政のかかわり、こういった柱立てになってくるんだらうと考えられる。そうすると、本市が今つづいている4つの柱を見てみますと、そのどちらの視点にも立っていない、非常に新しい視点で書かれているので、もう少し項目ということによってどういう力が子どもたちや市民にもたらされるのか。あるいは成長、そういうことの吟味というものが必要なのではないかと思う。		理念を伝えることの結びを「まち松戸」という言葉で結ぶ点はちよつと気になる。  ・副委員が残された言葉で、言葉は文化のあらわれであるという言葉がすごく私の心に残っていて、確かに「まち松戸」の話もありましたが、きちんと大綱の理念の中で、それが反映できて納得できるものであれば、あってもいいのかもしれない。あるいはこれを置きかえても十分にこの言葉表現する言葉というのは幾らでも考えつくし、そのほうが明快であると私は若干感じている。	これを市民に向けて出す以上、市民がわかりやすく、かつビジュアル的にぱっと市民に浸透していくようなものであることが望ましいと思うので、「何とかのまち松戸」というサブタイトルでそれぞれ1から4まであるのも、一つの受けとめ方なのかと思う。	・「まち松戸」という結びが、市民にこういう意図だときちんと伝われば、納得せざるを得ないかという気はある。  ・「まち松戸」と結ぶのは気になる。  ・ビジュアル的に市民に浸透していくものとして「まち松戸」というサブタイトルも悪いものではない。	・1・2の「～のようにします」を3・4の結びに合わせ、「…環境をつくります」としました。  ・サブタイトルの「まち松戸」という表現から、端的な目標となるような表現に修正しました。	1 松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性に合った環境で学べるようにします —可能性にチャレンジする学びのまち 松戸—  2 “松戸で子どもを教育したい”と選ばれるように、子どもたちが地域社会のみならず共に育つようにします —市民みんなで子どもの成長を支える子どもにやさしいまち 松戸—  3 市民みんなが、高齢になってもいつまでも元気で暮らせるように、学習活動や運動ができる環境をつくります —高齢者が生きがいを持って共に暮らし続けられるまち 松戸—  4 松戸の文化の多様性と可能性を最大限発揮できる環境を整え、またスポーツ振興を図ることで、松戸の街の魅力を高めます —文化とスポーツを大切にすまち 松戸—	1 松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性を伸ばせるように、教育環境をつくります —可能性にチャレンジする力を育みます—  2 子ども達が地域社会の中で育つように、市民みんなが子どもの成長を支える地域の環境をつくります —松戸で子どもを教育したいと選ばれるようにします—  3 市民みんなが、いつまでも元気で学び続けられるように、学習活動や運動ができる環境をつくります —高齢者も障害のある人も生きがいを持ち続けられるようにします—  4 松戸で文化やスポーツの活動をする人たちが活躍できるように、多様性が尊重され可能性を発揮できる環境を整えます —文化とスポーツで松戸の魅力を高めます—

柱全体

市長	教育長	山田委員	松田委員	市場委員	武田委員	伊藤委員	意見概要	対応方針	原案	修正案
<p>・教育委員会に対して、松戸の子どもを育てるときには、県立高校のあり方というの、多く松戸の市民も通っているのだから、そういうことも考えてほしい。例えば私立の高校に対して、松戸全体から見たら私立高校にこういう機能をもっと持ってほしい、そのために支援をしていくとか、そういうことも議論してほしいし、あるいはそういう中で、松戸が持つ高校の意味合いも、市立高校と松戸をどうするだけでなく、松戸の子ども全体をどうするかという中で考えてほしい。要するに、思考の範囲をもっと広げてほしいという思いがあって、教育という視点ではなくて、もっと広がりを持ってほしいというのがベースにある。</p> <p>・子どものどんな目指す方向を書いてはいけないとか、そういうことはないで、先ほどあった各委員のいろいろな思いがあるので、それは僕は追加してもいいとは思いますが、それはまた、厚みを持たせるといいう意味ではそちらのほうがいいのかなという感じがする。</p>	<p>・この項目4つの表記全体を通して、何のためにというところを私の感覚で誤って読み取れない表現が多いのかなと思った。</p> <p>・1番については、今はいろいろなニーズが生まれてきているから、学校教育に限って言うと本当に多種多様で、いろいろな施策が必要になる。そうすると、いろいろな考え方が必要になり、それを全部書き上げたら本当に大変なので、逆に1番、2番ぐらいにまとめるのがいいのかなしれない。</p>	<p>・4・5年かけて使う大綱の中で、学校教育全般をこの1項目で押さえたときに、言いたい真意が何かというところ、方向づけというのがいまいし見えにくい。</p> <p>・まちというめ方をするので、その印象がすごく強くなる。「松戸市は、可能性にチャレンジします」とか、「チャレンジする子どもたちを応援します」とか、多分そういう主語のほうに責任感と姿勢が出せるものになると思う。「まち松戸」というくり方が、これが市長のお考えの中でこれを外せないということであれば、それを否定するものではないけれども、教育大綱という位置づけの中でどうなのか。</p>	<p>1番、2番というところを見ると、学校教育だというふうな解釈が大勢をなしているが、この項目を見ると、「環境で学べるように」、環境づくりをしますということ。それから、2番目「共に育つようにします」ということで、環境を整えれば子どもたちはそれで育っていくんだという項目になっています。ところが、学校教育のほうでは、ある程度方向性を持って教育しているというふうな視点もあるの、この辺はもう少し市民の自立という観点に立った環境を整えますから、どうぞ、あなた方、自由にやってください、というような形の自立ではなくて、学校教育ではこういった力を育みますとか、態度を培っていきまうとか、そういった積極的、前向きな表現というふうなものも必要なのではないかと思う。</p> <p>松戸のためという視点でいった場合には、なかなかグローバルな視点というところまで生まれてこないし、例えば山崎直子さんなども生まれてくることはなかった、そんなふうと思う。それから、松戸の強みということを考えて、先ほどの大学もそうだが、私立高校もたくさんある。それから、何より東京に近いということも一つの大きな強みになってくると思う。そうすると、外部リソースをどうやって活用していくのかというふうな、そういう面と教育と関連づけてまとめていくということも必要になってくるのではないか。</p>	<p>大綱は、市長の権限と教育委員会のすり合わせが必要なことについて大まかな方針を書くものだという方針でつくられたのであれば、こういう形も確かにありなのかなと考えるが、それだけだとちょっと寂しい。もう少し学校教育について言うと、少くも子どもたちの育成を目標としますとか、そういうことをもう少し高らかに宣言するような部分があってほしいというのが希望である。それは、1番のところにある程度含めてはいるのかもしれないが、何かもう少し、こういう子どもたちの育成を目標としますとか、そういうものをもう少しある程度別枠で掲げるという構成にするほうが、僕としてはありがたい。</p>	<p>松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性に…。このハイフンをつけて何かという表題をつけたい形をとりたいのであれば、「可能性にチャレンジする力を養います」というワンセンテンスで完結するほうが美しい。下も、「子どもたちが自らの将来に目標を持ち、その実現に向けてチャレンジするための「生きる力」を育みます。」は、既にその次に続く「さらに社会的に自立し」というのは、最初の1行で社会的自立のための育みますという文言が出ているので要らないのではないかと。2行目として、「他」ではなくて、「他者」ときちんと書いたほうがいい。「他者と協働しながら創造的に生きていく基礎を養うとともに」ではなくて、「養い、これからグローバル化する社会を生き抜き、活躍する人材を育成します」。なぜならば、「能力や個性を伸ばし」という部分は既に上で述べているので、重複する必要はない。それと、「生きる力」という説明書きの3項目立てているが、そのうちの「豊かな学力」というところに対する項目のように感じている。「豊かな心、健やかな体」「知・徳・体」という部分にもう1項目立ててもよいのではないかと。学校教育の中を、学ぶというところだけに注目せず、そうではない部分、道徳な部分とか、体づくりの部分をもう1項目、1番については立ててもいいのではないかと。</p> <p>グローバル化とか、トップを走ってやっていける子のための整備というのは割と整えやすいのかなと思うが、基礎的な体力であるとか心の強さというものをどこか今の社会の中ですごく大事にしなきゃいけない問題はいつぱい起きてるので、そういう部分が項目立てとして1個あっても、例えば1を2分割するでもいいと思う。何となくこの「生きる力」の中の箇条書きの中で、これで豊かな心の一言で解決できるような社会ではない気がするので、そこは一番手直ししてほしいと思う。</p>	<p>・柱の1から4で、教育大綱として期待されているところは、子どもたちの教育というか、1の部分にかかるところはウエートとして大きくあっているのかなと。柱は、非常にうまく4つ均等割りされ、均等なウエートを占めていて、見た目から言うと、非常に美しくなっているが、果たして1から4まで同じようなウエートで我々は施策を進めていくというよりは、1の学校の教育については、もう少し力が入ってもいいのではないかと。「能力や個性に合った環境」というのは、いまよく理解できない。その後の説明の文章から読んでみると、ここは、「それぞれの能力や個性を伸ばせる環境」で学ぶのがいいのではないかと。その下の説明の3行目、もう既にグローバル化が進んでいるので、「これからのグローバル社会」ではなく、「今後ますますグローバル化する社会」としたほうがいいのではないかと。それから、「そうした社会を生き抜く」というのは、「生き抜く」というのは、あえぎながら何とか生き抜いているというふうな、そういうことではなくて、「そういう社会の中でリーダーシップを持って活躍する人材を育成します」ぐらいの意気込みをできればここで示したほうがいいのではないかと。</p> <p>・(市長の話を受けた後)教育大綱が、学校教育に集中したものでなければいけないということはずしもないので、こういう形の全体の枠組みをやっているのではないかと。思う。</p>	<p>・子どもたちの育成の目指す方向について、追加しても良いと思うし、大綱に厚みが出る。</p> <p>・学校教育は様々なニーズが生まれ、いろいろな考え方が必要となっているので、現行の1・2ぐらいのまとめ方が良い。</p> <p>・「まち」というまとめ方をするとすごく強くなる。</p> <p>・環境を整えるから自由にやっくださいという自立ではなく、こういった力を育みますといった積極的、前向きな表現を。</p> <p>・こういう子どもたちの育成を目指しますかを高らかに宣言する部分がある程度別枠にするほうが僕はありがたい。</p> <p>・太字と説明文が一致しないとか重複する部分がある。</p> <p>・「生きる力」の解説があるが、道徳的な部分と体作りの部分をもう1項目立てても良いのでは。</p> <p>・1～4が均等のウエートとなっているので、1のウエートを大きくして、学校教育にもう少し力が入っても良いのでは。</p> <p>・グローバル化は既に進んでいるので、「これから」ではない。</p> <p>・外部リソース(大学・私立高校・都内の教育関連施設等)の活用を教育と関連付けてまとめていくことが必要。</p>	<p>・生きる力を本文中に、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力(生きる力)」とすることで、育成の目指す方向を明確にしました。</p> <p>・社会的な自立、他者との協働、創造性、個性を伸ばすなど、本市として重点的な育成の方向性を列挙し、その結果として、グローバルに活躍する人材像となるよう文言を整理しました。</p> <p>・子どもたちの安全・安心な学習環境の整備に取り組む姿勢を示しました。</p>	<p>1 松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性に合った環境で学べるようにします —可能性にチャレンジする学びのまち 松戸—</p> <p>子どもたちが自らの将来に目標を持ち、その実現に向けてチャレンジするための「確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力(生きる力)」を育みます。そして、社会的に自立し、他者と協働しながら創造的に生きていく基礎を養います。 ※生きる力…確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力</p>	<p>1 松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性を伸ばせるように、教育環境をつくり —可能性にチャレンジする力を育みます—</p> <p>子どもたちが自らの将来に目標を持ち、その実現に向けてチャレンジするための「確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力(生きる力)」を育みます。そして、社会的に自立し、他者と協働しながら創造的に生きていく基礎を養います。 子どもたちの能力や個性を伸ばすことによって、今後ますますグローバル化する社会の中で、活躍する人材を育成します。 また、子どもたちが安全・安心な学習環境で、学ぶことが出来るようにします。</p>

柱  
1

	市長	教育長	山田委員	松田委員	市場委員	武田委員	伊藤委員	意見概要	対応方針	原案	修正案
柱 2		「選ばれるように」というのが最初に来ると、これが目的になるのかということになり、それはちょっと誤解を招くので、順番は逆になったり表記のちょっとした工夫で表現はできると思うので、その辺をもう一度考えてほしい。	私としては大変評価をした。家庭教育の支援が言葉として入った。子どもを育てる環境を家庭教育にも言及した上で力を入れるのかということを出されたので、これを受けて、教育委員会は後でどういう手を打つか、あるいは市長部局と何をやっているかということに踏み込まれたと私は思ったので、2番はおおむねという主張があるかということでは理解したつもりである。	いじめ・不登校そういった教育的な課題と、学校教育の抱える課題、そういったことに市民みんなで関わって成長を支えていくんだと、そういう視点をもっと盛り込んでいくべきではないかと思う。同じく2番、「すべての子どもたちが幼児のときから」とあるが、私は「乳児」のときから、もっと幅広く地域とのかかわり、あるいは大人とのかかわり、教育、そういったものを考えていくべきではないかと思う。	「松戸で子どもを教育したい」と選ばれるように」と、そういうふうには松戸市として努力をするということかもしれないが、「選ばれるように」という言葉には何となくそぐわないようなニュアンスを感じる。	上の太字の部分びんと来なかった。その下の内容はごくよくできていると思うが、最後の部分で、「また」というところから、「誰もが安心して子どもを育てることができ、これが親御さんとか親に類する方の思いですね。その次、「すべての子どもたちが幼児のときから地域社会の一員として様々な教育を受け、健全に成長することが出来るまで」を目指すのではなくて、受ける子どもたちがどうなんだということなので、「受けることができる健全な成長を目指す」という形のほうがナチュラルな気がする。この内容を踏まえて、上の太字の2行を精査すると、「市民みんなで子どもの成長を支える地域との連携を深め、子どもたちが地域社会とともに育つ体制をつくります。」サブタイトルとして、「松戸で子どもを教育したいと選ばれることを目指します」というような形でもいいのではないかと。	「松戸で子どもを教育したい」と選ばれるように」とは、子どもを松戸で教育したいと大人が選んでくれるというのは非常に理想的な姿だと思う。一つの目標というか、理想を掲げるにはそれはいい言葉なのかと思う。ただ、「地域社会のみならず」とも育つ」は表現としては甘いというか、弱いのではないかと。ここは、「子どもたちが地域社会の中で安心して育つようにします」、それと似たような表現が下にあるが、そういうふうにしたほうがわかりやすいのではないかと。	「選ばれるように」という言葉はそぐわない。 ・教育課題を市民みんながかかわって成長を支えていくんだと言う視点。 ・「幼児」より「乳児」のときから地域等とのかかわりを考える。 ・「受けることができる健全な成長をめざします」 ・「市民みんなで子どもの成長を支える地域との連携を深め、子どもたちが地域社会とともに育つ体制をつくります。」サブタイトルとして、「松戸で子どもを教育したいと選ばれることを目指します」 ・「選ばれるように」とは、松戸が選ばれる非常に理想的な姿だと思う。	・市民みんなで関わることを冒頭にもつてくることで強調し、選ばれるという目標は、サブタイトルのほうにしました。  ・文章全体を見直し、前半を家庭教育、後半を幼児教育として、整理し、修正しました。	2 “松戸で子どもを教育したい”と選ばれるように、子どもたちが地域社会のみならず共に育つようにします 一市民みんなで子どもの成長を支える子どもにやさしいまち松戸ー  子どもの権利が尊重され、健やかに成長できるように、家庭教育を支援し、学校・地域社会と一緒に子どもの成長を支援できる体制を整えます。また、すべての子どもたちが健やかに成長できるように、子どもの権利が尊重される地域社会をつくり、その中で幼児のときから様々な教育が受けられるようになります。	2 子どもたちが地域社会の中で育つように、市民みんなで子どもの成長を支える地域の環境をつくります 一松戸で子どもを教育したいと選ばれるようにしますー  誰もが安心して子どもを育てることができるように、家庭での教育を支援するとともに、学校・地域社会と一緒に子どもの成長を支援できる体制を整えます。また、すべての子どもたちが健やかに成長できるように、子どもの権利が尊重される地域社会をつくり、その中で幼児のときから様々な教育が受けられるようになります。
柱 3	例えば60を超えて、仕事をしていた人が地域に戻ってきたときに、地域社会に入っていくって、これからはもっと社会貢献していただきたい。しかし、今までいた社会と地域で活動するということは、大変大きなギャップがある。そのギャップをどう取り除いて教育をして、社会に貢献できるのか、60歳以上になって、また社会に貢献できるような人をもっと育成して欲しいと思っている。そういったときに、生涯教育という視点ではなくて、社会で貢献できるような人をどう育成していくかということも範囲として見てほしいと思っています。要するにもっと広がりを持ってほしい。	「高齢」という言葉が教育大綱というものにはそぐわないような気がする。もしどうしても入れるのであれば、「いつまでも元気で暮らせるように」ではなく、「いつまでも学び続けられるように」とか、教育に関連するような表現をしてほしい。  ・「地域コミュニティの形成を目指します」。最後にこう書いたら、では、地域コミュニティの形成を目指すためにというふうで考えるのかということになるが、教育大綱なので、生涯学習も含めて、教育というもののあり方がメインになるので、その辺をもう一回見直してほしい。	教育大綱の中に「地域コミュニティの形成を目指します」という文言がどのような意味を持つのか、あるいは施策としてどう展開し得るのか、あるいは市長部局の何かに連携してほしいという意図なのか、そこら辺も踏まえて、ちょっとそぐわないと思う。	これは福祉の文言になっているような気がする。もう少し教育的な視点でまとめられたらと思っている。  ・辛うじて3番なのかなと思うが、もう少し学術というような点で、学術の振興を図るところで市内の大学と連携を図ったり、あるいは社会教育ですけれども、博物館あるいは図書館、そういったものとの関連というものを位置づけてもいいのではないかと。つまり、学術の振興といいますが、その辺の項目が欲しい気がする。	・社会教育について、こういうものを目指しますとか、そういうものをもう少しある程度別枠で掲げるという構成にするほうが、僕としてはありがたい。  ・「市民みんなが、高齢になってもいつまでも…」は、「市民みんなが」に含めているかもしれないが、もうちょっと障害者とか、そういう方に対する文言があってもいいのかもしれない。	下の説明書きに、「子どもの時からふるさと意識を醸成し」という言葉が書いてあるが、これはどこに入れてもいいかと思う。飛び込んだのかという感覚を覚える。私の感覚では、これは4のほうに移動して盛り込んだほうがいい。  「市民みんなが、高齢になっても…」の「いつまでも」というところにリフレインするとか、「いつまでも元気で」と言わなくても、「高齢になっても元気で暮らせるように」という形で十分それは表現できているような気がする。むしろこの「いつまでも」という言葉を使いたいのであれば、下の項目立てしているところの「生きがいを持って」のところ、「いつまでも共に暮らし続けられる環境を推進します」という形のほうがナチュラルではないか。  この下について、「目指す」というよりも、より強く確かな表現をしてほしいのがこの最後の結びのところで感じたことだが、「推進していきます」とか、そういった確かにやるんだという、目指すというのは人がやることであって、行政がやる場合は、やっていくんだという強さがあったほうがいい気がする。より強い表現のほうが、「推進します」とか、「やります」的な、そういう結びのほうがいい。	「高齢」という言葉はそぐわない。 ・「地域コミュニティの形成を目指します」という言葉はそぐわない。 ・学術振興として、大学との連携や博物館あるいは図書館等との関連と言うものを位置付けてもよいのでは。 ・障がい者などに対する文言があってもいい。 ・3から4へ、「子どものときからふるさと意識を醸成し」を移す。 ・「いつまでも元気で」のいつまでもは不要。 ・「いつまでも共に暮らし続けられる環境を推進します」 ・「目指す」より「推進します」「やります」という表現を。	・「元気で暮らせる」から「元気で学び続けられる」に修正した。  ・高齢者と障害者という言葉はサブタイトルに移動、新設しました。  ・大学連携や社会教育施設の充実を明記しました。  ・ふるさと意識は、4に移動しました。  ・地域コミュニティの部分は、表現を整理しました。	3 市民みんなが、高齢になってもいつまでも元気で暮らせるように、学習活動や運動ができる環境をつくります 一高齢者が生きがいを持って共に暮らし続けられるまち松戸ー  生涯にわたって学習活動や運動を楽しみながら、自ら学び、学び合える「人と人がつながるまち」を目指します。また、子どもの時からふるさと意識を醸成し、市民が自らの力で、身に付けた知識や経験を活かして地域環境整備を行います。また、市民が、地域の課題を自らの力で解決していけるように、身に付けた知識や経験を活かしていける環境を整備します。	3 市民みんなが、いつまでも元気で学び続けられるように、学習活動や運動ができる環境をつくります 一高齢者も障害のある人も生きがいを持ち続けられるようにしますー  生涯にわたって学習活動や運動を楽しみながら、自ら学び、学び合える「人と人がつながるまち」を目指します。そのため、市内大学等との連携や社会教育施設の充実を図るなど環境整備を行います。また、市民が、地域の課題を自らの力で解決していけるように、身に付けた知識や経験を活かしていける環境を整備します。	

市長	教育長	山田委員	松田委員	市場委員	武田委員	伊藤委員	意見概要	対応方針	原案	修正案
<p>大綱で書いているのは、広がりを書こうとしているんだらうと思っている。要するにもっといろいろな広がりがある中で、例えば文化といっても、個人の楽しみだけではなくて、文化を通じてまちの活性化にもつながってくるし、いろいろな人、どんな人が集まってくるかというのそこから変わってくるし、いろいろな大きな影響力があるので、そういうものも考えていろいろやってほしい。したがって、ここに限定する必要は全然なく、もっと広げてもいいんです。要するにもっと大きな効果、影響力があるので、そういう視点でぜひ見てほしい。</p>		<p>文化の香るまち松戸ということ言えば、これも松戸市にとって一つ特徴があることなんだらうと思うが、これも一般論から先、何を言いたいのかというところがいま一つ。文化を大切にしますということからどういう施策に展開するのかについて、考え方や背景とかあれば、これも大事なことである。</p>			<p>下の説明書きの部分の「…文化を創造できる人を生むまちを目指します」と、これは若干無理な気がする。「人を生む」なんてことは結果論であって、行政ができるわけではなく、行政ができるのは、「その環境を整える」ことだと思うので、ここは絶対書き直してほしい。それと、「愛着を持つ人が更に増えるようにします」という結びは、人が増える数値的な感覚というのは文化に対して違和感があるので、例えば「心を養います」とか、数値的に人数が増えるのではなく、どんな人の中にもうっすら芽生えてくるというような感覚のほうが正しい気がする。太字の結びの部分「松戸の街の魅力を高めます」ではなく、これはあくまで文化とスポーツをする側の人間の話なので、まちの魅力ではなくて、人の魅力を高めるので、この部分は、「松戸の魅力を高めます」でいい気がする。さっき3で省いて4に移行したほうがいいと言った「子どもの時から」というところで、もうちょっとはっきりと「松戸の文化遺産を大切に守り学ぶことから、ふるさとの意識を醸成することを目指します」とか、そういったことをこの「子どもの時からふるさと意識を」というのを4の文化の項目に移行したらどうか。「多様性と可能性を最大限発揮できる環境」、すごく大きく、正直私にはイメージができない。理念なので壮大でもいいのかもしれないが、もう少し地に足のついた部分も盛り込んだほうがわかりやすい。</p>		<p>・「人を生む」のは無理で、行政は「その環境を整える」ことだと思うので、書き直してほしい。                  ・「愛着を持つ人が更に増えるように…」は、数値的な表現より「心を養います」などがよい。                  ・「松戸の街の魅力を高めます」は、街ではなく人の魅力を高めるので、「松戸の魅力を高めます」でよい。                  ・「子どもの時から松戸の文化遺産を大切に守り学ぶことから、ふるさと意識を醸成することを目指します」などとして、3から移行してはどうか。                  ・「多様性と可能性を最大限発揮できる環境」はすごく大きくて、正直イメージできない。</p>	<p>・松戸の魅力をサブタイトルに移動しました。                  ・「多様性と可能性を最大限に発揮できる環境」を「多様性が尊重され可能性を発揮できる環境」とし、具体的にイメージできるように表現を変更しました。                  ・「人を生むまちを目指す」から「人が生まれるような環境を整備」に変更しました。                  ・ふるさと意識を3から移動しました。                  ・「更に増えるようにします」から「心を育てます」に変更するなど、文章全体を見直し修正しました。</p>	<p>4 松戸の文化の多様性と可能性を最大限発揮できる環境を整え、またスポーツ振興を図ることで、松戸の街の魅力を高めます                  ー文化とスポーツを大切にす                  るまち 松戸ー                  多様な文化芸術活動を支援し、国際的な広い視野で文化を創造できる人を生むまちを目指します。また、スポーツを振興するとともに、松戸にゆかりのある選手を応援します。文化やスポーツの振興を図ること                  で、松戸に誇りと愛着を持つ人が更に増えるようにします。</p>	<p>4 松戸で文化やスポーツの活動をする人たちが活躍できるように、多様性が尊重され可能性を発揮できる環境を整えます                  ー文化とスポーツで松戸の魅力を高めますー                  多様な文化芸術活動を通して、国際的な広い視野で文化を創造できる人が生まれるような環境を整備します。また、松戸の歴史文化を大切に守り学ぶことから、ふるさと意識を醸成します。                  文化やスポーツの振興を図り、松戸にゆかりのある人を応援するとともに、松戸に誇りと愛着を持つ心を育てます。</p>

柱  
4